

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0057号
護國青年會議機関紙 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成21年1月5日

謹賀新年



空蟬の世に武士の影慕ふ
我は我なり、人は人なり

皇紀二六六九年元旦、首都東京は一点の翳りもない快晴の新年を迎えた。皇尊の御座す東の空には、新春に相応しい穏やかな黎明の風景が広がる。遙かに皇居を拝し、深く頭を垂れて、御皇室の御安寧と御繁栄を願う。

「皇尊弥栄、皇尊弥栄、皇尊弥栄」

昨年、「日本は侵略国家であったのか」と題する論文を公表し、更迭された軍人がいた。彼の名は田母神俊雄。当時、航空幕僚長だった田母神氏の論文は、主として二十世紀初頭の支那大陸や朝鮮半島と日本との関わり合いについて述べたものである。同氏は論文の中で「毛沢東率いる中国共産党や蒋介石の国民党が（ソ連を支柱とする世界各国の共産党の組織である）コミンテルンの支配下であったこと」や「コミンテルンの狙いは日本と国民党を戦わせ、両者を疲弊させ、最終的に毛沢東に中国大陸を支配させること」を指摘した上で「我が国は蒋介石により日中戦争に引きずり込まれた被害者である」と持論を展開している。田母神氏の主張は、すでに内外の多くの研究者が指摘している事実で、国際社会でも認められていることである。

然るに日本政府は、政府見解と文民統制を楯にして、弁明も許さず、氏の正論を暴論として切り捨てた。これは取りも直さず日本政府が、日本加害者論に塗り固められた村山談話を、今後も守り続けていくということで、国民感情とは著しく乖離した愚行である。

田母神氏の論文を読むと、武士とは斯くあるべしという思いが随所に見られる。自衛隊は武士道の精神を受け継ぐ素晴らしい組織であり、自衛官は一朝有事には危険を顧みず、日本国の平和と主権を守るといふ崇高な使命を果たすべく日夜精進を重ねている。今回の不当な処分が自衛官の気概を損なうことのないよう願ってやまない。

編集人・戸出蒼流

政治家と官僚への忠告 黎明編集人・戸出蒼流

民主主義の根幹を示された明治天皇



力を所有し、自らそれを行使することができるということである。その最たるものが選挙であるということは言うまでもない。

安倍、福田、麻生と国民の信を問わない政権が三代続き国民の閉塞感と怒りは今や極限となり、爆発寸前である。

自民党は福田では選挙に勝てないということを理由に麻生を総裁に据えたが、支持率は一向上がらず、首相の失言や政策のブレ、そこへ世界規模の経済金融危機が追い討ちをかけ、内閣の支持率は急降下し、解散を先延ばしすることに専念している。

明治元年（一八六八年）三月十四日、明治天皇は五箇条の御誓文を公布し、明治政府の基本方針をお示しになられた。前年には大政奉還が成り、明治天皇は王政復古を宣言されている。従って「朕は国家なり」と言ったルイ十四世のように専制君主となつて独裁政治を行うことも可能だった。だが明治天皇は「広く会議を興し、万機公論に決すべし」と天地神祇にお誓いになり、立憲君主国としての道を歩まれることを宣言された。「万機公論に決すべし」とは「天下の政治は世論の向かうところに従つて決定せよ」という意味で、民主主義の根幹を為す言葉であるが、今の政治家たちは、世論の向うところに従つどころか、世論を無視して、党利党略に精を出しているのだから呆れたものである。

民主主義「デモクラシー」の語源はギリシア語のデモス（人民）と権力（クラティア）を結合したもので、人民が権

畏れ多くも明治天皇は、百四十年前に五箇条の御誓文を公布され、民主主義の根幹をお示しになられた。

与野党の政治家が真に国家

官僚の心得を示した十七条の憲法



撰政として推古天皇の補佐役に任じられた聖徳太子は、衰退した皇室の権威を回復し、天皇中心の中央集権的な官僚体制の確立を目指し、十七条の憲法を制定した。

当時の官吏たちは、今の官僚と同じように腐敗し、私欲を満たすことに躍起となつていた。そのような状況において、太子は墮落した役人を戒める為、第五条を制定し、役人の奮起を促した。

【第五条】

饗（あじわいのむさぼり）を絶ち、欲（たからのほしみ）を棄てて、明らかに訴訟を弁えよ。其れ百姓の訟（うったえ）一日に千事あり。一日すら尚しかり、況んや年を累（かさ）ぬるをや。訟を治むる者は利を得

為政者たちよ大西郷の志を学べ！

大久保利通、木戸孝允とともに維新の三傑と称えられて

の将来と国民の生活を考へているならば、明治天皇の心中をご拝察し「万機公論に決すべし」を深く心に刻んで政を司るべきである。

るを常となし、賄（まい）ない）を見てことわりを聴く、財ある者の訟は石を水中に投ぐるが如く、乏しき者の訟は水を石に投ぐるに似たり（後略）

【現代語訳】

官吏は酒席の接待を絶ち、欲を捨て、訴えを厳正に審査しなさい。庶民の訴えは一日に千軒もある。一日でもそつだから一年ではどうなるか。訴訟に携わる者は賄賂を得ることが常識となり、賄賂を見てから訴えを聞いている。即ち裕福な者の訴えは、石を水に投げ込むように容易に受け入れているが、貧しい者の訴えは容易に聞き入れて貰えない。

近年、木っ端役人どもの墮落した体質は目に余るものがある。本来、公僕として国民に仕えなければならぬ身でありながら、私腹を肥やすことに没頭している。昨年話題となつた「居酒屋タクシー」は顕著な例だ。破廉恥で卑しい官僚は即刻排除すべきだ。

あけましておめでとございませう。旧年中の御厚情を深謝申し上げますとともに本年も変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。 スタッフ一同



訓を纏めた「大西郷遺訓」という書物がある。遺訓の中で西郷は、為政者は先ず正道を踏まなくてはならないと説いている。正道とは私欲を抱かず公に奉ずることである。然るに、日本の国会議員でこの正道に適う者が何人いるのだろうか、現状を思うと虚しさ

が募るばかりだ。

また西郷は、国家の大業を成す為には「命もいらぬ、名もいらぬ、官位も金もいらぬ」人こそ必要だと述べている。西郷がいうような人物が現れない限り、日本の危機を打開し、疲労困憊した国民を救うことは不可能だ。経済がすべてを支配する風潮に左右されている日本と、金と欲に塗れた政治家に対して、

大西郷が具現化したあの美しい理念に戻れ、と念願する。

あけましておめでとございませう。旧年中の御厚情を深謝申し上げますとともに本年も変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。 スタッフ一同